



2016年2月9日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック  
代表者名 代表取締役社長 福永 健司  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰  
(電話番号 03-6693-9571)

### 「ヒト化マウス」に関する特許が日本にて成立

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：福永健司、福岡市）と国立大学法人熊本大学（学長：原田信志、熊本市 以下熊本大学）は、2010年12月21日に「ヒト化マウスの開発」に関して共同研究契約を締結し、当該研究成果について共同で国際特許出願（PCT/JP2012/058790）をしておりました。このたび、日本において当該特許が成立し、設定登録（特許第5871412号）されましたので、お知らせいたします。

このたび成立した特許は、当社と熊本大学生命資源研究・支援センター山村研一シニア教授（当社技術統括担当取締役）のグループとで、より有用なモデル動物の創出を目指して、共同研究しておりました「ヒト化マウス」の研究成果の権利化を図ったものです。

ヒト臓器を保有するマウスは、ヒト疾患モデルマウスの作製や病態解析、治療法の検証、薬物代謝の検討に有用であり、当社CRO事業での非臨床試験受託とのシナジー創出が可能なことから、当社ジェノミクス事業及びCRO事業の成長戦略のドライバーになるものと期待されます。

今回の特許成立により、ヒト化マウスの日本における知的財産が保護され、当社のヒト化マウスの事業化を強力にサポートすることが可能になりました。

また、当社は、当該特許に関する技術をさらに発展させた「臓器ヒト化マウス」技術に関しましても、2015年6月18日に国際特許出願（PCT/JP2015/64541）をしており（参考：2015年6月18日付リリース『[「臓器ヒト化マウス」に関する国際特許出願のお知らせ](#)』）、引き続き権利化を進めてまいります。

なお、本件の2016年3月期の連結業績への影響は軽微であり、業績予想に変更はありません。

#### ◆ご参考 : ヒト化マウス

ヒト化マウスとは、便宜的に遺伝子レベルでのヒト化マウス、細胞レベルでのヒト化マウス、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの3種類があります。遺伝子レベルでのヒト化マウスは、当社が有する可変型遺伝子トラップ法または可変型相同組換え法によりすでに作製可能です。細胞レベルでのヒト化マウスの例としては、ヒト白血球を持つマウス、ヒト抗体を産生するマウスがあげられます。組織・臓器レベルでのヒト化マウスは、生体内で正常にヒト組織や臓器を再構築し、持続的に機能させ、ヒトの細胞や組織が拒絶されることなく体内に存在するマウスです。例えば、ヒト肝臓を持つマウスなどがあります。このようなヒト化マウスを用いることにより、非臨床試験や創薬研究をよりヒトの状態を反映したモデルで進めることが可能となります。

以上